

香合新田から大船山～十倉

第48回武庫川エコハイク
20110312 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²。篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の7市1町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える2級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなど)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。

2級河川だが流域に阪神地帯を抱え流域人口では全国第10位である。「阪神間の母なる川」である。上流から三田盆地までは緩やかに流れ、中流には武庫川渓谷でV字谷になる一風変わった川である。この渓谷は六甲変動と同時期にこの地域も隆起し、これに対抗して武庫川が穿刻し、流路がそのまま残る特異な先行河川である。

ここに県営ダムを作る計画があつたが豊かな自然環境を破壊することで反対する市民運動が持ち上がり、県は流域住民を含めて武庫川流域委員会を設置して2年半にわたり協議した結果、2010年10月、ダムは検討に時間がかかることから、20年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

西谷 宝塚市北部長尾山山系の北側に位置し、宝塚市の2/3の面積を占め、豊かな自然が残る。猪名川と武庫川(支流)の上流に広がる谷合いの村西谷、中谷(現猪名川町)、東谷(現川西市)の一部である。

佐曾利(さそり) 宝塚市北西部に位置し中央に佐曾利川が貫流する。昭和初期から始まるダリアの栽培地として知られ、ダリア、アイリスなどの球根が輸出される。現在は国内出荷が多く全国生産量の1/3を占め第1位である。深宮山万正寺がある。

佐曾利の地名については諸説があるが、地形から「さ」は川原、狭い、細い意味、「そ」は盆地のを表わし、「り」は里。又この地域に天佐鬼命(あまのさそりのみこと)の子孫佐曾利氏が住んだともいわれる。

佐曾利川 香合新田を源流とする佐曾利川は途中大原野川などと合流し波豆川となって千苺水源地に流入する。

万正寺 真言宗大覚寺派の寺院。天平17(745)年行基菩薩により創建された。猪名川町の東光寺と同じ菩薩自ら刻まれた薬師如来座像(秘仏)がご本尊。東光寺は大井の薬師、ここは大江の薬師として信心を集めた。創建後その寺容は多くの堂宇が整えられたが、その後戦火に会い、悉く灰燼に帰したが、17世紀江戸時代に再建がなされた。

素盞鳴神社(すさのおじんじや) 万正寺創立時の鎮守

佐曾利カルデラ 1億年～6500万年前にこの地区で大規模な火山活動があり火砕流によって溶結凝灰岩が堆積した。火山の噴火でできた火口を中心にカルデラが形成され、その範囲は三田市から猪名川町に達する。

香合新田(こうばこしんでん) 宝塚市最北端に位置し、佐曾利川の最上流部である。近世中期西谷大原野入野の人によって開拓される。古代ここに高貴な方の墳墓があつたと伝えられる。「香」は高貴な方、「合(ハコ)」は祠、墓の意。

この事業は兵庫県瀬戸内海環境保全連絡会の助成を受けています

高畑峠 佐曾利川香合新田と波豆川大磯を結ぶ峠。峠にお地蔵様が祀られている。

大磯 高畑峠を西に下った波豆川の集落。現在は閉鎖アスレチックコース跡がある。大船山が島だったころこころが磯だったという。

大磯のおこり地蔵(伝承) 昔、大船寺の参道で倒れていた旅の老僧を看病した村人の恩に感謝して頼みごとのある時は「おこりです。頼みます」と唱えなさい、といひおいて亡くなった。村人は地蔵を立てて老僧を葬った。このお地蔵様がご利益があることで有名になつた。

波豆川(はずがわ) 屋ヶ岳を源流として途中宝塚市を抜け、千苺水源池に流入する武庫川の支川。

大船山(おおふなやま) 標高653.1m、三田市北部の羽束川、波豆川に囲まれた地区に鋭い三角錐の秀麗な山容を見せている。地質は有馬層群の凝灰角礫岩から成り、これらの火山噴火物が残されたものと思われる。頂上には役小角(えんのおづぬ)を祀る祠がある。伝承では太古にはこの辺りは湖で大船山は島で船をつないだ松があつたという。古くは大舟山といわれた由縁である。山頂付近には大船山山頂遺跡があり、中世の土器の破片が発見されている。山頂付近に関西電力の通信用反射板がある。

大舟寺(だいしゅうじ) 昔、百済の国から僧日羅がこの山で修行し舟寺というお寺を創建したと伝えられる。後に弘法大師がお堂を建て大舟寺と呼ばれるようになったという。更に大舟寺は東山麓の松尾谷に移されて現在に至っている。大船山の大舟寺跡は「テラヤシキ」と呼ばれ山頂付近に残っている。

十倉城跡 大船山を十倉に下る途中に十倉城跡がある。多田院御家人十倉氏の屋敷跡と背後にある三角山に三段の城跡がある。

高平谷 大船山の西側に広がる谷は高平谷と呼ばれ、中央を羽束川が流れる。

羽束川(はつかがわ) 武庫川最大の支流で、源流は大阪府能勢町天王の深山(みやま、標高791m)。途中篠山市籠坊温泉、後川(しつかわ)、三田市高平を経て宝塚市波豆で波豆川を合流して千苺水源地に注ぐ。武庫川には武庫川峡谷の直上流の神戸市道場で合流する。流域面積95千km²(武庫川流域の19%)、長さ32km、高低差360mで武庫川本流よりも勾配が大きい。「羽束」は「波都加之(はづかし)」から出、「泥部(はづかしべ、石の職人)」の住む所という説がある。「波豆」の語源も同意と考えられる。

高売布神社(たかめふ) 十倉の対岸に高売布神社がある。祭神は下照比売命(したてるひめにみこと)・天稚比古命(あめのわかひこのみこと)、格式の高い三田唯一の延喜式内社である。拝殿前面社号額に「正一位荷月(いつき)大明神」とあるが、江戸時代の儒学者並河誠書所がこれが誤りで式内社であることを指摘し新社号石「高売布社」を建てた。本殿、木造狛犬一對は国指定重要文化財である。因みに宝塚市の売布神社も貴布禰神社が式内社であることを並河誠書が指摘し社号石「売布社」を建てている。

コープともしびボランティア振興財団からの助成により作成